

各 位

唐津農林事務所東松浦農業振興センター長

稲作情報第4号

1. 気象概要 (アメダス: 唐津地点)

月	半旬	平均気温 (℃)		最高気温 (℃)		最低気温 (℃)		降水量 (mm)		日照時間 (h)	
		平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8	平年	R8
7	1	24.7	23.9	28.0	27.6	22.2	21.2	87.3	252.5	15.2	9.5
	2	25.3	27.7	28.7	32.2	22.8	24.0	92.9	11.0	19.9	44.7
	3	26.0	29.6	29.6	34.3	23.2	25.5	74.1	0.0	26.4	48.6
	4	26.6	29.7	30.5	34.6	23.6	26.4	45.1	0.0	31.7	39.2

7月2半旬～7月4半旬までの平均気温は平年より2～4℃程度高く、降水量は少なく、日照時間は長く推移した。

気象庁が発表している九州北部地方の1か月予報では、向こう1か月の気象は、晴れの日が多く平均気温は高くなる確率が高いと予想されている。

2. 生育状況 (調査日: 7月23日)

項目 品種 (設置場所)	年 次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
コシヒカリ 唐津市厳木 町天川 5/16 移植 標高 550m	本年値	81.7	355	12.7	31.7	・草丈は平年並み ・茎数は平年より少ない ・出葉は平年より早い ・葉色は平年より淡い
	平年値	81.1	384	12.3	38.1	
	平年比	101	92	+0.4	-6.4	
項目 品種 (設置場所)	年 次	草丈 cm	茎数 本/㎡	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
夢しずく 唐津市相知 町伊岐佐 6/12 移植 標高 70m	本年値	66.1	322	11.0	42.1	・草丈は平年より低い ・茎数は平年よりやや多い ・出葉は平年より早い ・葉色は平年より濃い
	平年値	69.4	312	10.2	39.9	
	平年比	95	103	+0.8	+2.2	

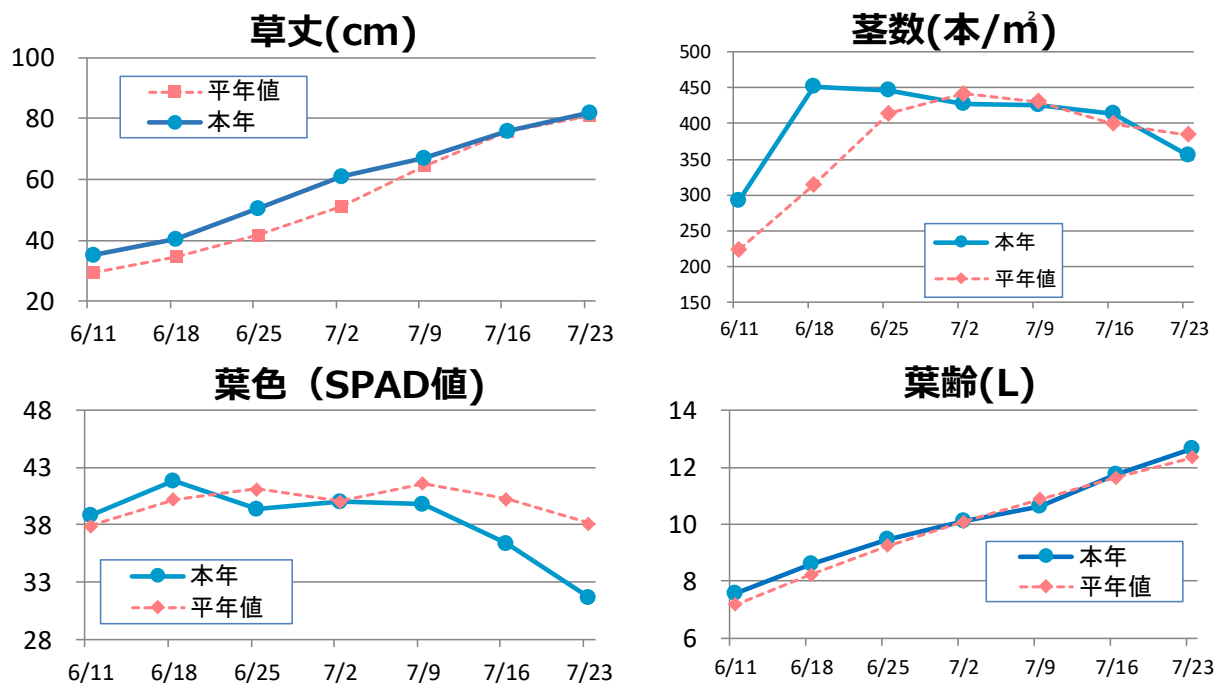
項目 品種 (設置場所)	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	主 稈 出葉数 L	葉色 SPAD	概 要
さがびより 唐津市相知 町相知 6/20 移植 標高 10m	本年値	67.5	503	10.5	45.4	・草丈は平年より高い ・茎数は平年より多い ・出葉は平年よりやや遅い ・葉色は平年より濃い
	平年値	55.9	464	11.0	42.5	
	平年比	121	108	-0.5	+2.9	

※平年比の【草丈】【茎数】は平年比、【主稈出葉数】【葉色】は平年差で表記している。

(1) 山間早植え

- ・作況ほの「コシヒカリ」は止葉抽出を迎えており、7月28日頃の出穂が予想され、平年より4日程度早い出穂が見込まれる(平年値8月1日)。
- ・梅雨明け後、高温多照傾向で推移していることから、葉色が急激に褪めている。

◎「コシヒカリ」作況ほの生育グラフ(厳木町天川)

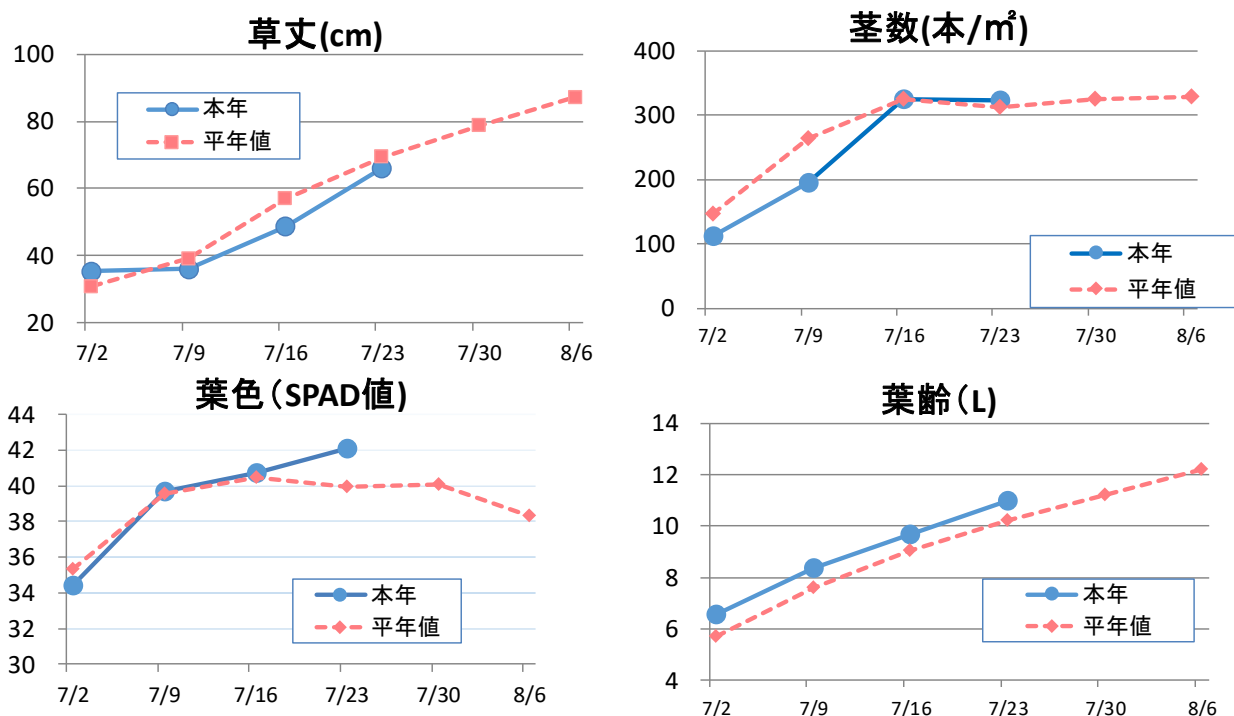


(2) 普通期水稻

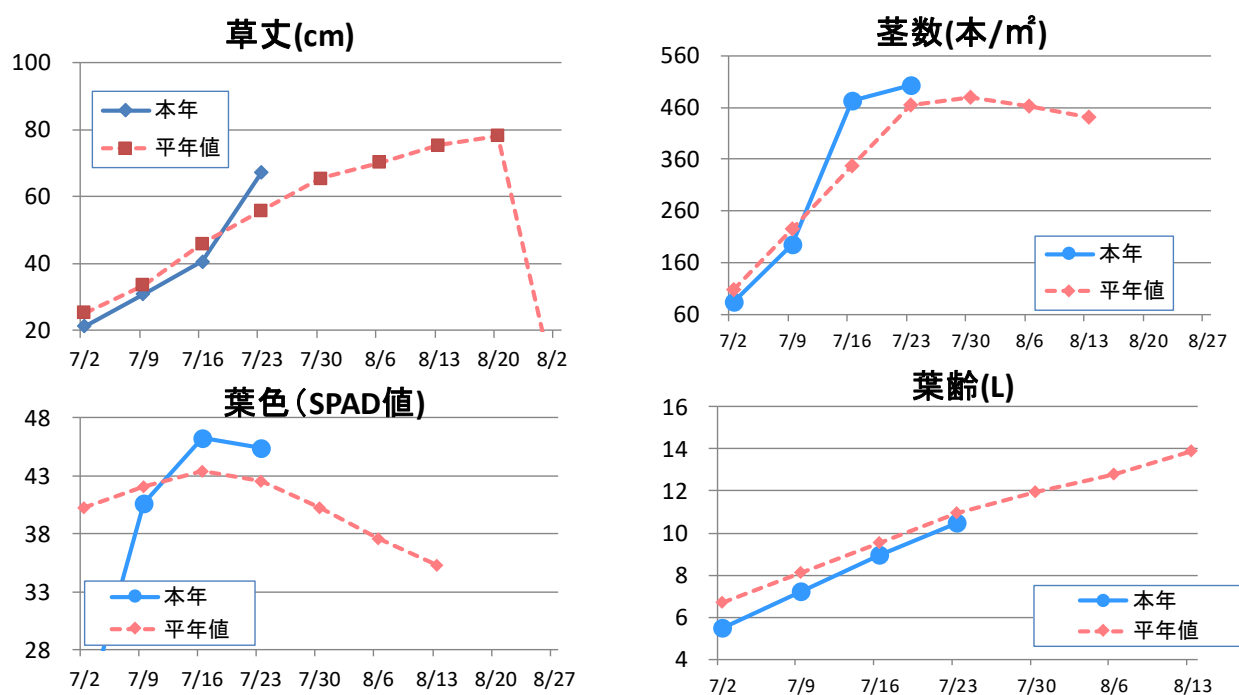
- ・7月2半旬以降、好天に恵まれたことから、作況ほの「夢しずく」及び「さがびより」両品種ともに生育は回復し、茎数も平年より多くなった。
- ・「夢しずく」は、幼穂形成始期を迎えており、「さがびより」は最高分けつ期を迎えている。
- ・移植後、生育が停滞していた「さがびより」では、生育回復に伴って葉色も濃く、草丈が急激に伸長している。

- ・トビイロウンカについては、現時点で作況ほ場では幼虫のふ化は確認していないが、今後の発生には注意が必要である。
- ・7月10日以降、全品種においてコブノメイガによる食害が増加している。

◎「夢しずく」作況ほの生育グラフ（相知町伊岐佐）



◎「さがびより」作況ほの生育グラフ（相知町相知）



3. 今後の管理

(1) 山間早植え

①栽培管理

《水管理》

- ・幼穂形成期から穂揃期はイネが最も水を求める時期であるため、間断灌水での管理とし、出穂期前後1週間は湛水管理とする。土壤表面が白く乾く白乾状態は避ける。
- ・断続的な降雨により十分な中干しができなかった圃場では、間断灌水の落水期間を長めにとるなどして田面を固める。
- ・出穂期の湛水管理以降は、収穫約1週間前の落水時期まで間断灌水を継続する。

【間断灌水】

- ・入水後、自然落水させ、右の写真のように足跡に水が残る状態になったら入水する水管理を繰り返す水管理方法である。



間断灌水

(2) 普通期水稻

①栽培管理

《水管理》

- ・6月上旬移植の「夢しずく」では幼穂形成期を迎えることから中干しは終了し、間断灌水の水管理へと移行する。
- ・有効茎数が十分に確保できていない「さがびより」の圃場では、引き続き浅水管理で分けつ促進に努める。
- ・有効茎数20～25本/株が確保できた圃場は、順次中干しへ移行する。
- ・中干しは田面に軽く亀裂が入る程度とし、手が入るほどの亀裂ができるような過度な中干しは避ける。

【中干しの目的】

- ① 無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ② 窒素制限による生育量の適正化
- ③ 有害物質の除去及び土壤酸化による根の健全化
- ④ 地耐力を高め倒伏を防ぐ



適度な中干し

《肥培管理》

- ・6月上旬に移植された「夢しずく」では、幼穂形成始期を迎えている。
- ・次表の穂肥診断基準に基づき、施用時期を逸しないよう穂肥を適切に施用する。
- ・今後も気温は高く推移する予報であり、穂肥を施用しない場合は登熟期の栄養不足により品質の低下が懸念されることから、緩効性の基肥一発肥料を使用しておらず葉色が褪めている圃場では積極的に穂肥を施用する。

1)「夢しずく」の穂肥診断基準(県基準)

幼穂形成 始期草丈	葉色		施用時期		施用量
	群落	SPAD	出穂前	幼穂長	窒素成分 kg/10a
73cm 以下	3.0 以下	34 以下	20-22	1mm	3.0
	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	3.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.5-2.0
	3.8 以上	40 以上	施用の場合止葉抽出終了まで		1.0 以下
73-79cm	3.0-3.5	34-38	18-20	2mm	1.5-2.0
	3.5-3.8	38-39	15-14	10-15mm	1.0
	3.8 以上	40 以上	施用しない		0.0
80cm 以上	原則として施用しない				0.0

草丈は幼穂形成始期(1mm)を基点に前後1日当たり1cm増減する。

(3)病虫害・雑草管理(山間早植・平坦普通期共通)

《雑草関係》

- ・「ホタルイ、オモダカ、ノビエ類」の後発生が多い圃場では、散布時期を逸しないように中後期除草剤を処理する。ただし、特別栽培の圃場では農薬成分カウント数に注意する。



【花茎伸長したホタルイ(草丈 20cm)】



【バサグラン粒剤散布後】

《病虫害関係》

①トビイロウンカ

- ・佐賀県農業技術防除センターの調査では、次ページの表のとおり6月上旬から複数回にわたって、断続的な飛来が確認されている。
- ・今後は、本種の増殖に好適な気象条件が予想されることから、圃場での発生状況に注意するとともに、発生予測図(山間・早植え水稻:図1、普通期水稻:図2)を参考に適期防除に努める。
- ・防除は、効果の最も高い幼虫ふ化揃期に実施するとともに、圃場は湛水状態とし、薬剤は株元まで届くように留意する。

②コブノメイガ

- ・7月10日頃から、本虫による食害が増加している圃場が散見される。
- ・発生予察情報を参考として、圃場での発蛾最盛期（成虫発生盛期）を確認し、その1週間後に防除を行う。なお、大規模経営など発蛾最盛期の把握が困難な場合はカルタップ粒剤などを用いた防除を検討する。

海外飛来性害虫情報第6号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (令和8年7月17日更新)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県						
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラップ (20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ
5月	22日	0	0	0		0	0	0								
	23日	0	0	0		0	0	0								
	24日	0	0	0	0	0	1	0	0							0
	25日	0	0	0		0	0	0								
	26日	0	0	0		0	1	0								
	27日	0	0	0		0	20	1								
	28日	0	0	0	0	0	1	0	1							0
	29日	0	0	0	0	0	0	0								
	30日	0	0	0		0	0	0							0	
	31日	0	0	0		0	0	0		0		0				
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	2日	0	欠測	0	0	0	欠測	0	0						0	0
	3日	欠測	1	0	0	欠測	0	0	0							0
	4日	0	0	0	0	0	17	0	1	0						0
	5日	0	0		0	0	0	0	1	0						1
	6日	0	1	0	0	0	1	1	0						0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0							1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0						0	1
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0							1
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0							0
	16日	0	0	0	0	0	1	0	0			0			0	0
	17日	0	1	0	0	0	1	0	0							0
	18日	0	4	0	0	0	4	0	0	0						0
	19日	0	0	0	0	0	1	0	1						5	6
	20日	0	8	0	0	0	4	0	0							44
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1							8
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0							12
	23日	0	0	0	0	0	2	0	0			0			22	6
	24日	0	0	0	0	0	29	4	0				2			11
	25日	0	0	0	0	0	47	0	0	0						1
	26日	0	1	0	0	0	106	4	0						10	0
	27日	0	1	0	0	0	11	0	0			0		1		1
	28日	0	0	0	0	0	4	0	1							0
	29日	0	0	0	0	0	1	0	0	0						0
	30日	0	0	0	0	0	3	0	0	0			0		3	0
7月	1日	0	12	0	0	0	7	1	2	0	0					0
	2日	0	11	0	0	0	7	5	0	0	0					0
	3日	0	2	0	0	0	8	0	0	0	0					0
	4日	0	22	0	0	0	46	2	0	0	0	0		4	0	4
	5日	1	3	0	0	2	32	0	0	0	0					0
	6日	0	99	0	0	2	111	0	0							0
	7日	0	25	0	0	0	32	0	1	0	0		0	0	4	0
	8日		3	0	0		5	0	0	1	0					0
	9日		0	0	0		2	0	0	1	0					0
	10日		0		0		0		0	0	0	0		1	7	0
	11日		0		0		0		0	0	0					0
	12日		0		0		2		0	0	0					0
	13日		0		0		0		0	0	2					0
	14日				0				0	1	3					0
	15日				0				0							0

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。6月1～2日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

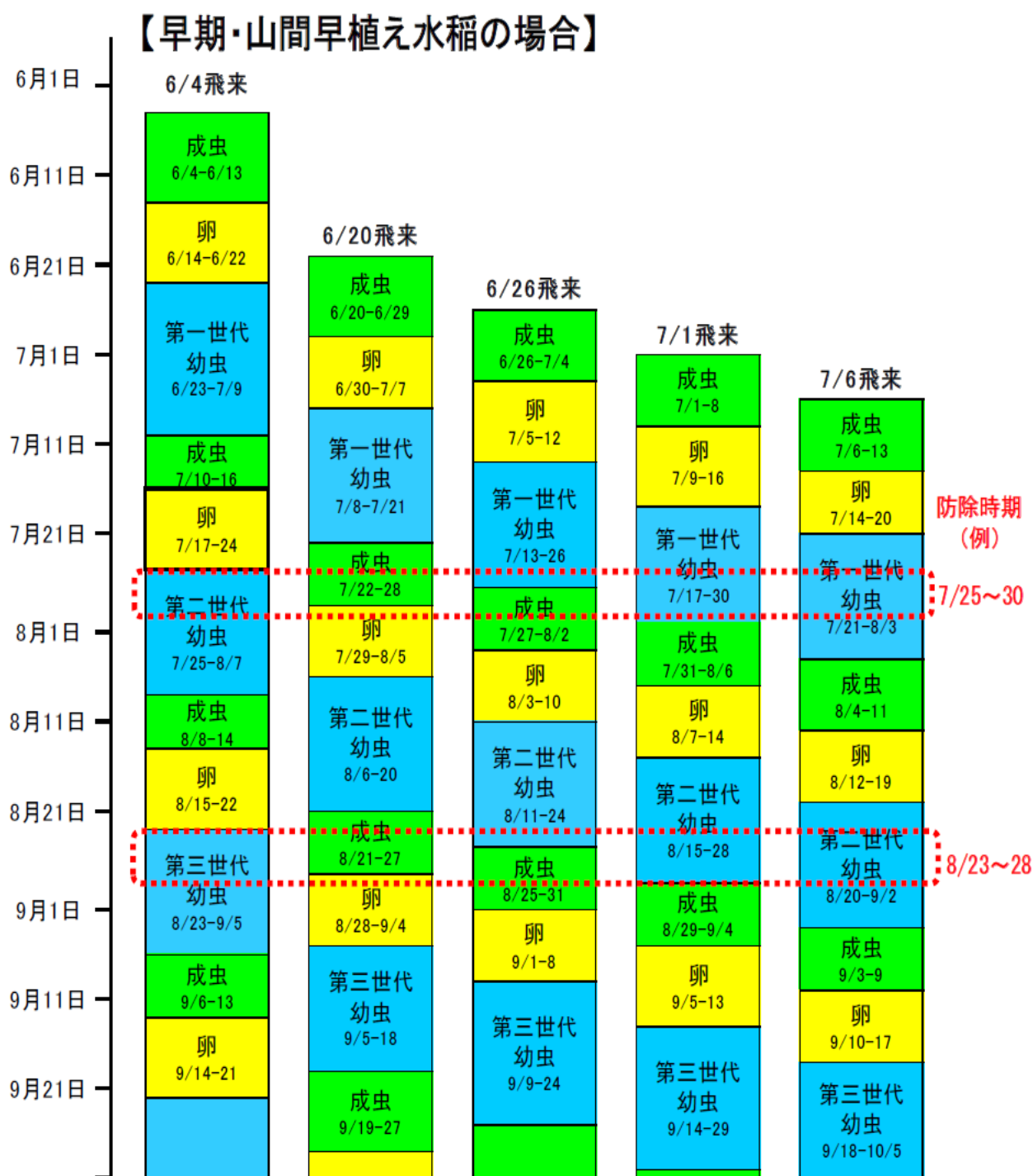


図1 早期・早植え水稻でのトビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2026年7月8日作成)

1. 6月3~6日頃 (図では6月4日)、6月17~20日頃 (図では6月20日)、6月26~27日頃 (図では6月26日)、7月1日~2日頃 (図では7月1日)、及び7月4日~6日頃 (図では7月6日) の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ (7月8日以降は平年値) に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 赤枠囲みは、発生予測からみた防除時期 (例) を示す。
3. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
4. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

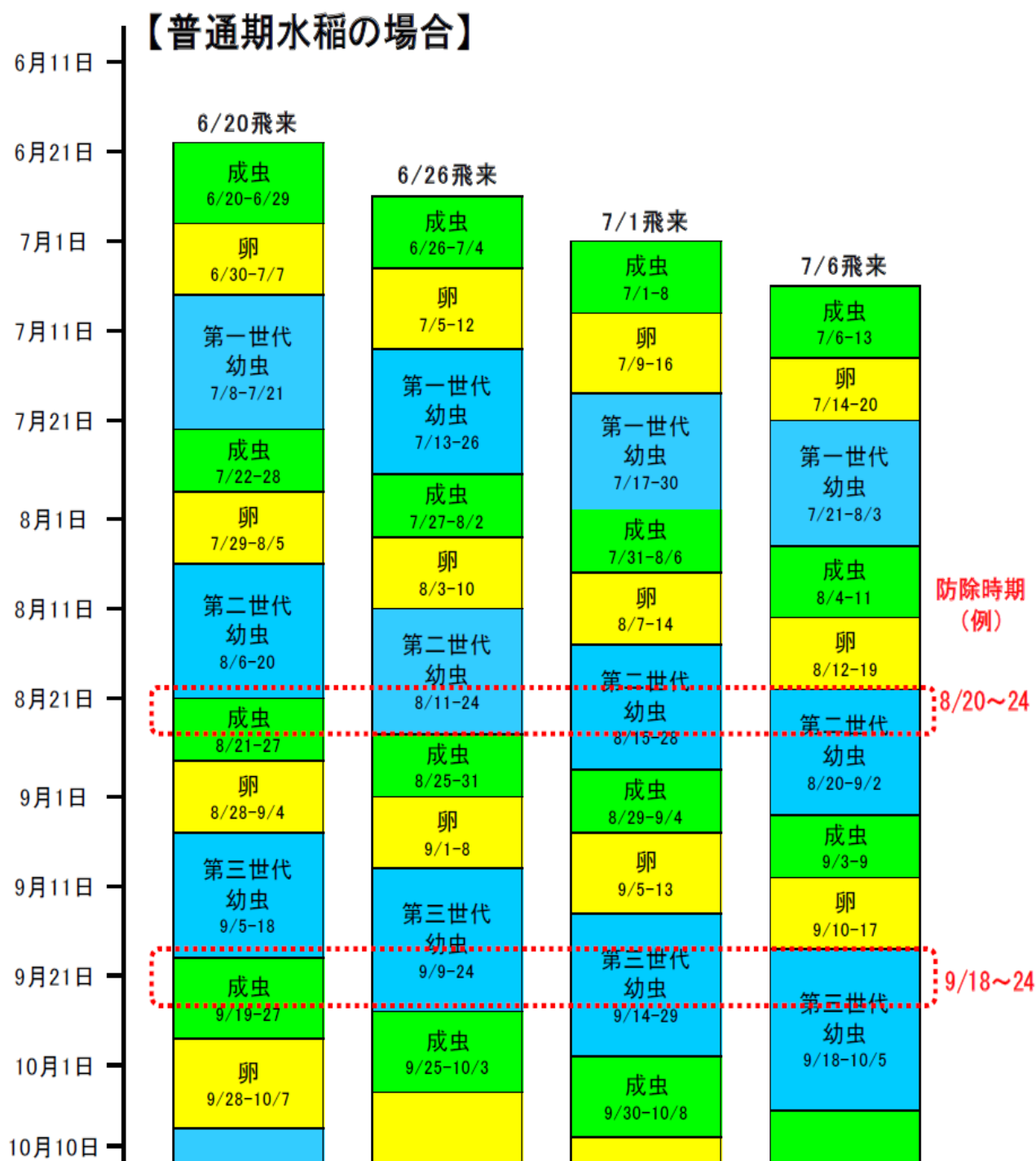


図2 普通期水稻でのトビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2026年7月8日作成)

1. 6月17~20日頃 (図では6月20日)、6月26~27日頃 (図では6月26日)、7月1日~2日頃 (図では7月1日)、及び7月4日~6日頃 (図では7月6日) の飛来虫を起点とし、トビイロウンカの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ (7月8日以降は平年値) に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 12℃、発育上限温度 28℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 赤枠囲みは、発生予測からみた防除時期 (例) を示す。
3. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
4. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

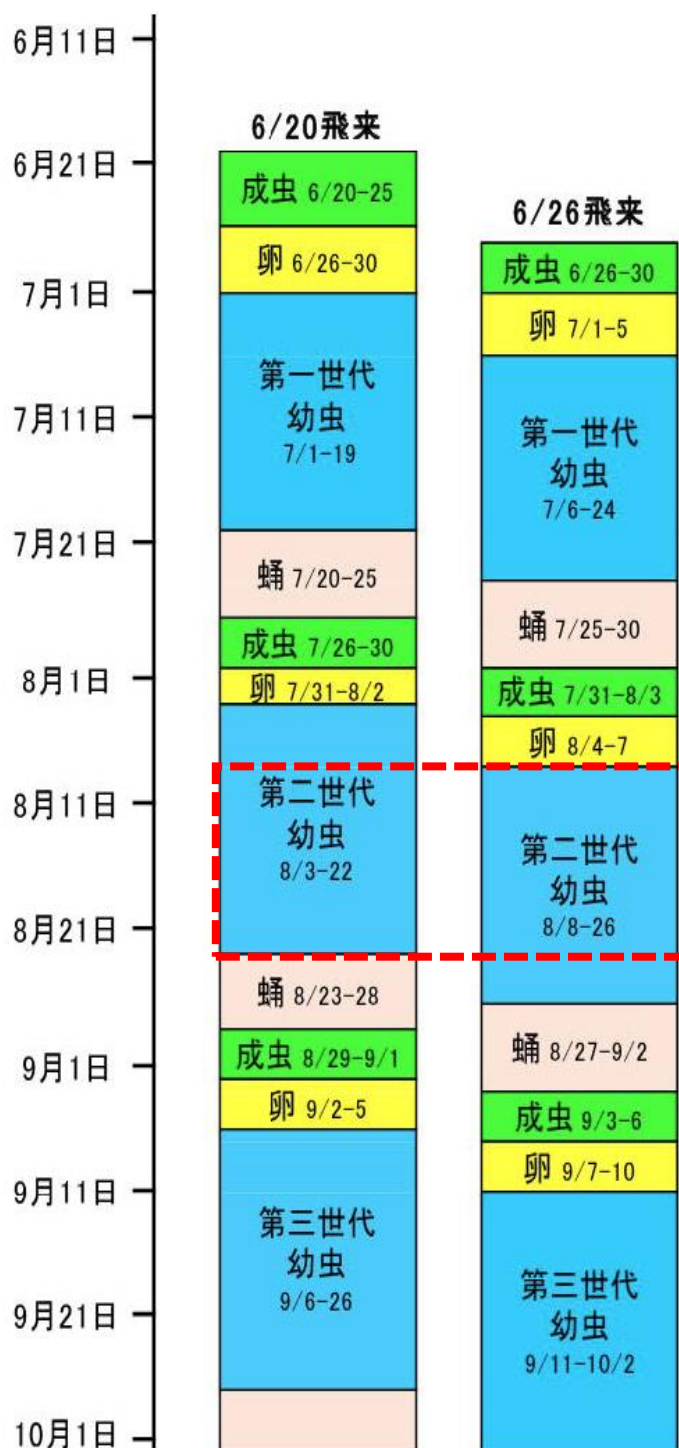


図3 コブノメイガ各世代の発生予測（第1版、2026年7月8日作成）

1. 6月20日頃、6月26日頃の飛来虫を起点とし、コブノメイガの有効積算温度及び佐賀市川副町のアメダスデータ（7月8日以降は平年値）に基づき作成した。三角法を用い、発育零点 13℃、発育上限温度 28.5℃、発育停止温度 33℃とした。
2. 田植え時期、品種等の違いによって、本虫の発生量は異なるので、必ず圃場ごとの発生状況を確認したうえで、防除対策を講じる。
3. 今後の気象経過等に応じて、本図は随時、更新するので、最新情報は、農業技術防除センターのホームページで確認する。

③いもち病

- ・6月4半旬以降の曇雨天により、管内「コシヒカリ」、「夢しずく」及び「にじのきらめき」において、いもち病の発生を確認したが、その後、好天に恵まれ高温多照傾向で推移したことから、病斑の進展は見られていない。
- ・いもち病の進展型病斑が確認された場合は、農薬成分カウントや収穫前日数に留意しながら、オリブライト250G等で臨機防除を実施する。



いもち病(停止型)

【BLASTAM 情報】

- ・6月23日以降、感染好適条件は出現していない。
- ・今後も本病の発生に注意するとともに、特に盆地や山あいの圃場など空気が滞留し湿度が高くなり易い圃場では本病の発生を注意深く観察する。



いもち病(進展型)

④紋枯病

- ・高温多湿条件で多発する。
- ・今年は、夏季が高温になる予報であることから、本病の発生に注意が必要である。
- ・本病が多発した場合、稲体の支持力低下により倒伏が助長され、収量品質の低下や収穫作業への支障を招くため圃場の発生状況に応じて適切に防除を実施する。
- ・粒剤の場合は出穂の30～20日前、水和剤及び粉剤の場合は出穂の20～10日前を中心に防除を行う。



紋枯病の病斑



被害株に形成された菌核

⑤カメムシ類

(斑点米カメムシ類)

- ・県では、早期水稻を対象に令和8年6月22日に斑点米カメムシに対する注意報を発令した(令和8年6月22日付け佐農技防第281号)。
- ・県農業技術防除センターが県内のイネ科雑草地で行った調査では、斑点米カメムシの発生量が平年よりかなり多く、今後の吸汁被害が懸念される。
- ・畦畔雑草は斑点米カメムシの増殖・飛来源となるため、耕種的防除として出穂10日前までに除草作業を行う。それ以降に除草作業を行うと、畦畔に生息する斑点米カメムシが圃場内に移動し被害が助長される。

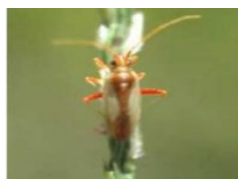
- ・斑点米カメムシ類の防除適期は、乳熟期（出穂約 10 日後）、発生が多い場合は穂揃い期と乳熟期の 2 回防除を実施し、被害防止に努める。



クモヘリカメムシ



ホソハリカメムシ



アカスジカスミカメ

《振興センターが実施した水稻圃場での調査結果》

●斑点米カメムシ類調査結果（20回すくい取り）

調査地	クモヘリカメムシ		ホソハリカメムシ		アカスジカスミカメ		イネカメムシ	
	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫	成虫	幼虫
①	2	1	0	0	0	0	0	0
②	5	2	0	0	2	0	0	0

（イネカメムシ）

- ・出穂期にイネカメムシに加害されると不稔粒となり減収となる。
- ・近年、県内においても発生が確認されており、被害の拡大が懸念されている。
- ・特に周辺より出穂が早い、または遅い圃場では飛来が集中し被害が大きくなる可能性があるため、圃場をよく観察し、発生が多い場合は、出穂期の防除を行う。



イネカメムシ

※穂ぞろい期や乳熟期に防除を行う斑点米カメムシとは防除適期が異なるため注意する。

令和8年産 稲作期間気象図

アメダス観測値(唐津)

東松浦農業振興センター

